

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム彩寿 (ユニットあじ彩)	評価実施年月日	平成21年5月7日
評価実施構成員氏名	中村 圭子 西川真知子 大石美恵子	古市 恵理 内村 加奈 笠原いづみ	加茂 秀樹 増澤 有子
記録者氏名	安孫子 貴志	記録年月日	平成21年5月25日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	①その人らしい自由な暮らしの中で、明るく豊かな毎日を過ごせるホームを提供します。 ②ご家族に安心と信頼を、そして地域と共に歩むホームを目指します。 ③彩寿のスタッフは出会いに感謝し、ホームで働く誇りと喜びを持って日々まい進します。 以上の理念を作り上げている。	○	理念達成に向けて日々努力していきたいと考えている。
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	初期の頃は毎日理念を復唱したこともあったが、このごろは出来ていない。理念をホーム内に掲示しているが既に忘れられている可能性も否定できない。	○	定期的に理念について再認識する機会を確保するようにしたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホーム内の目に付く場所に掲示はしている。地域の方々に周知を図る機会を持っていない。	○	認知症高齢者に対して地域の理解が得られるよう理念の周知も含めて働きかける機会を多く持つようにしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	お会いした時には挨拶は最低限行うようにはしている。ホームにも足を運んでいただけるよう事あるごとにお誘いはしているが実現には至っていない。	○	これからも様々な機会を通じて隣近所の方々とお付き合いを深めていけるようにしていきたい。ホーム側からの歩み寄りを多くするようにしていきたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の保育園との交流や町内会の行事にも参加した。	○	これまでできていることに関しては今後も継続すること、また新しいことに関しても随時情報を収集し、参加して頂く方向に持っていきたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	特にホーム側からの働きかけは出来ていないのが現状である。	○	ホーム主催の行事などを通してご近所の方々とコミュニケーションを図るよう努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	会議等で説明している。	○	意義についても説明しているが、何分多忙な中での作業の為全体的な意見の集約とはなかなかかなりづらいというのが現状である。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	おおよそ2ヶ月に1度のペースで実施してきた。その中でグループホームとどのようなところなのかということは概ね理解していただけたのではないかと思える。	○	次期委員を現在選考中であるため、決まり次第随時開催していきたいと考えている。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議への市町村職員の参加はない(家族としての参加はあり)。その他ホームで発生した問題など率直に担当者に相談し助言を頂いている(運営上の相談について)。	○	今後も継続していきたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	機会は実際のところ設定できていない。	○	現在制度を利用されている方もいるので随時学習の機会は設けていきたいと考えている。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	不定期に開催される外部研修において参加し、高齢者虐待防止の意義について理解を深めている。参加スタッフより概略の説明は行った。	○	研修の機会がごく一部のスタッフしかないので、今年中には実施していきたいと考えている。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	懇切丁寧に説明し不明な点は遠慮なく問い合わせさせていただきようお伝えしている。	○	契約に関しては全てのスタッフが周知しているわけではなく、今後機会あるごとに各スタッフが最低限の知識として把握すべきことを伝えていくこととしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	不満や苦情については随時職員が聞き取るようにし、なるべく速やかに解消するよう努めている。些細な事柄は別として、運営に関わる事等については苦情処理台帳に記し閲覧できるようにしている。	○	現状について継続していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族への連絡は電話、文書、メールなどの媒体の他面会時に口頭でも行っている。	○	連絡のし忘れがないようにスタッフ間での確認を徹底したい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族から苦情など頂いた際は管理者などへ報告し速やかに事実説明、又は場合により謝罪するなど対応している。	○	日頃から適切なサービスの提供に心がけると共に苦情、意見などを言いやすい環境を整えていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議や朝夕の申し送りの時間等に設けている。	○	言いづらい場になっていたり、内容的に他者の前では言えないことであったりということも考えられるので、個別に聞く機会を設ける必要性もあるのではないかと考えている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務の調整は随時行っている。	○	今後も同様に行っていききたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	行っていない。	○	関係が持っている職員が仕事上の不満等で退職することがないように声掛けは今後もなるべく多く行っていききたい。給与の問題は今後の課題である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の育成計画は作成できていない。開設当初採用した職員らの研修は行ったがその後については実施できていない。	○	外部研修、内部研修(学習会等)、資料配布等なるべく多くの機会を組み込んでいきたいと考えている。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市内のグループホーム連絡会に加盟し研修会や懇親会に参加し知識を深めると共に同業者との交流を深めている。	○	左記を含めて、同業者と職員交流を行っていきたいと考えている。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の悩みを個別に聞く機会や宴席の席を設けるなどによりストレス解消に努めていきたい。	○	引き続き現状のことを継続していきたい。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	その都度の賞賛や、昇給などの手段にて意欲を高めるよう努めている。	○	昇給については収入の面から見合った額には必ずしもなっていないのが現状である。昇給以外の具体的な評価方法の検討も必要と思える。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居時においては事前にご本人に面談し面識を持っていただくよう努めたり、ご家族又はサービス事業所との連絡調整を密にすることで入居がスムーズに運ぶよう努めている。ただし、入居自体にご本人が納得されているケースは非常に少なく、あくまでも事前の面談は顔合わせ程度のもになってしまうケースが多い。	○	ご家族やサービス事業所からの情報提供により把握するよう努めていきたい。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	その都度傾聴に努めている。	○	今後も継続して行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用を希望されているご本人又はご家族からのご相談時にグループホームの入居の条件を具体的に提示しそれらを満たしているかどうか又満たしていない場合他の介護サービスにどのようなものがあるか、又その連絡先など出来る事を限りの事を情報提供している。	○	今後も懇切丁寧に対応していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	特に入居してから一定の間は可能であればご家族の面会を頻回に行っていたり、職員が他の入居者となじむことが出来る様必要であればその都度紹介したり、説明したりということを行っている。	○	これまでと同様の事を行っていききたい。又ご家族の希望も一律ではないので個別に意見を伺いながらなるべくであれば沿える方向で取り組んでいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	戦争の時の話や以前勤めていた仕事の話、生活の上での話など傾聴し共感する。昔ながらの料理屋裁縫など教えたり逆に教わったりなどして一緒に作業する。	○	現状を継続していくこと、個々の興味のある事、得意とすること等を探っていき、日々のサービス提供に活かしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	生活していく上でご家族の事を気にされていたり必要としている様子があればご家族へ連絡し面会に来ていただく又は受診対応等の協力を頂くようにしている。	○	これまでと同様の事を行っていききたい。またご家族面会時の近況報告も継続して行っていき共に支えあうことについて認識を深めていただくようにしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人についての情報提供を定期的に行うことにより、ご本人の行動又は精神面を理解し受け入れて頂けるようにしていきたい。	○	家族間の揉め事について事業所があまり関わりすぎることは避けたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	ご本人の希望があれば馴染みの美容室へお連れするなどしている。問い合わせに関しては個人情報保護の関係があるため慎重に行なっている。	○	これまでの事を続けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	依存心が高い入居者がおり、ややもするとその言動によりトラブルが発生してしまうケースがある。未然にトラブルを防ぐべく対応しているが解決には至っていない。台所作業などで複数の入居者が関わるケースがありやり方で揉めたりする事も多い。	○	良い関係を築くことが出来る様職員全員で仲介するなどしているが関係自体は改善されているとは言えず、各入居者のご家族とも数多く相談の機会を持ち今後の持っていく方について検討していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	以前現在入居中のご主人が入院の為退所となったケースがあり、その方とは現在も関係を続けている。	○	ケースによっては退所後も関係を続けていく必要があることが今後も出てくると考える。その都度対応していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の意向については十分把握していると思える。把握自体は出来ているが、共同生活といった性格上それらの意向を全てかなえる事は困難である事は言うまでもない。依存心が非常に強い方などおり、他入居者よりも優先して自分を希望されるケースが多々あるが、声掛けにて納得していただかざるを得ないことも多い。	○	可能な限り個別のニーズに応えていけるよう努めたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴については特に開設当初入居された方々について把握していないケースが多い。	○	随時生活歴を把握していきながら、日々のサービス提供に活かしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	その都度観察し記録化すると同時に口頭などで職員間での情報共有に努めている。	○	現状を継続していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人に携わる介護職員と意見調整し、アセスメントしながら作成している。	○	現状を継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	おおよそ3ヶ月に1度の計画の見直しを行っている。また認知症状や各疾患の進行及び急変に伴う状況の変化に応じ、その都度作成するようにしている。ご家族へは状況の説明を行うと同時に要望なども聞き計画につなげ理解を頂いている。	○	現状を継続していきたい。また職員間の話し合いの場をなるべく多く持ち計画の見直しに活かしていきたい。モニタリングを介護計画見直しの際に実施しているが計画から計画への橋渡しとして内容が充実している事はもちろん、書きやすい、見やすい様式を検討していきたい。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録として個々の状況を毎日残している。内容をミーティング時に情報交換し日々のサービス提供に反映させている。	○	様式は昨年変更し使用中である。様式そのものに大きな問題はないと思えるが、計画の内容が記録に生かされているかどうか、又スタッフにおいて個別の計画の内容が周知されているかどうかという事も今後の課題として残る部分である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	対応可能な事柄であればその都度支援している。	○	現状を継続していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	特に他の機関と協働していただく場面はない。	○	施設サービスとほぼ同様の形態であるため、入居者様個別の対応に関しては原則的にホームスタッフが対応する形になる。事業所内での催しや緊急時等については当該機関と協働する場面も出てくるとは思われるが、通常ではなかなかケースがない。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他の介護サービスを利用されているケースは現在ない。	○	入居中の他サービスの利用は今後も実施の予定はない。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在は特に行っていない。ただし空床の問い合わせなどについては随時行っている。	○	今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	特に事情がない限りかかりつけ医に受診していただいている。	○	今後も継続していきたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に詳しい医師は身近におらず、職員の判断にて最寄の精神科のある医療機関へ受診していただいている。	○	今後も継続していきたい。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	契約先の訪問看護ステーション担当者と日常の健康管理について相談・助言を受けながら医療活用の支援を行っている。	○	日常生活における健康上の変化に職員がすばやく気付くようにし、小さな事でも相談し症状の悪化に至らぬよう配慮していきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者の入院先の相談担当窓口の職員との情報交換を密に行い、ご家族とも意見交換することで早期の退院が実現できるよう支援している。	○	今後も継続していきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	特に現段階では話し合いの機会は持たれていない。	○	ご家族、かかりつけ医と事業所との話し合いの機会を持ち事業所側が出来る事、出来ない事を明確化することで終末期介護の方針を共有していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ケースがないため現段階では行っていない。	○	ケースが生じた際にご家族、かかりつけ医等と連携し適切な終末期介護の提供が出来るようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	退所の場合、次の生活の場が当面医療機関であることが多い。退院後他の生活の場へ移り住む場合の情報提供については個人情報に関する同意も頂いていることから提供可能であるが、これまで特に事例はない。	○	事例があれば情報提供していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	言葉掛けの仕方は常識の範疇で心がけているが、ややもすると馴れ合いになってしまう事もある。着替えなどの介護の場合は丸見えにならぬよう配慮している。他入居者の見守りの事もあり、特に職員がひとりの夜間～早朝にかけては居室内の介護中の事故ということもあり、配慮しきれないこともある。	○	言葉掛け、振る舞いなど表面的な事柄に関しては尊重する姿勢を崩すことのないよう配慮していきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	他入居者のサービス提供に支障のない範囲でご自分の判断により生活を送っていただいている。	○	今後も継続していきたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	実現が困難なこともあるが出来得る範囲内で支援していると評価できる。	○	入居者の考えを尊重するという考え方を忘れずに他入居者介護に支障が出ることはない場合は出来得る限り希望に沿った支援を行ってきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	毎朝の整容の手助け、理容・美容の希望があれば随時連絡し行っていただいている。	○	現状を継続していきたい。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や片づけが出来る入居者様に対しては出来るだけ手伝っていただいている。	○	特定の方の手伝いが多いので他の入居者の方々にも少しずつ取り組んで頂けるよう努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	アルコールやタバコは愛用される方はおらず、又は医師の指示、ご家族の希望等により禁止されていることからその機会はない。その他の飲み物についてはなるべく種類を多く用意し好みにある程度対応可能なように配慮している。	○	今後も継続していく。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の訴えやサインが見られたときトイレ誘導している。失禁により汚れている場合はその都度交換する。	○	おむつから布パンツに変更するなどその方々に合わせた支援を行っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者により夕方や就寝前に入浴したいと希望される方がおり状況が許せば行っていただいている。入浴を拒否される方についてはご家族のご協力を頂きながら、多少の拒否は見られるものの介助にて行っている。希望にあわせていつでも入浴が可能とはしているものの、やはり介助に当たるスタッフの確保ができないと実施はできず、入居されている方には不満が残る部分かもしれない。	○	自力で入浴可能な方に関しては問題なく、決まった時間にこだわらず入浴はして頂けるものと思われるが、介助を要す方は特定の時間(スタッフが介助に入ることができる時間)で入って頂かざるを得ない。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	23時位までテレビを見てから就寝される方もいるなど、特に問題と思えることについてはご家族との相談により改善させていただくこともあるが、そうでなければ基本自由に過ごしていただいている。	○	今後も継続していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご本人のやりたい事が必ずしも全てホーム内で可能というわけではなく、自主的というよりは受身的な形での関わりと言う形にならざるを得ない。又若いスタッフも多く、入居者の方の興味ごととそのものを知らないという者も珍しくない。	○	月に1度でも入居者の方々が楽しめるような取り組みを考えたい(日常の介護業務にあまり支障が出ないような)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金管理が可能な方についてはご家族と相談していただき、実際に管理していただくようにしている。ただしご本人が所持している現金についてはトラブルにもつながるので、職員が把握するということには行っていない。買い物については全ての入居者とは言えないが、声掛け等し行っている。	○	現状について継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近隣への散歩等短時間の外出は日常的にはなっていないのが現状である。	○	外出はなかなか実施できていない現状がある。なるべく希望に沿い少しずつ実施していきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	回数はさほど多くはないが、市外の施設などへドライブ方々出かけている。	○	夏場については月に1度程度なるべく全員で外出の行事を組み、市内・外の公共施設などの見学を企画している。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自室に電話を敷設されている入居者もおり要望があれば支援するなど行っている。	○	今後も継続していきたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時にはお茶などをお出しし入居者とお越しになられた方が楽しく過ごせるよう心がけている。	○	今後も継続していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体を物理的に抑制する事は行っていない。	○	現状ではその必要性がある方はおられないが、今後症状の悪化などにより常時に近い状態で危険を伴うケースが生じてきた場合にはご家族と十分相談の上場合によっては行わざるを得ないこともあるかもしれない。ただしそのような状態になる場合は契約が介助になる恐れも十分想定はされる。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	身体を物理的に抑制する事は行っていないが、2階ユニットで職員がひとりになる時間帯居室内介助中に階段からの転落の可能性が高い場合があり、その際は通じるドアを施錠することがある(特に夕方から夜間～早朝にかけて)。	○	出来れば施錠せずとも問題がないようにしていきたいがその場その場の判断で危険と判断される場合にはやむを得ず使用することもある。特定のご家族よりご本人が不穏状態になった場合の対応として施錠を行ってほしいとの事でご了解いただいているケースもある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中居室内で過ごされている入居者に関しては不定期に巡回している他、夜間は2時間置きに巡回、また日中の状態によっては随時回数を増やすなど安全面や健康面の確保が保たれるよう配慮している。居室内での動きについては把握できないことが多く、特に転倒のリスクが高い方に関してはホールで過ごして頂くことが多い。	○	ご本人が極力自由な動きの中で生活を送って頂けるよう、スタッフの見守りの仕方も入居者の方に合わせて随時あわせることが可能のように指導していくこととしていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	認知症の進行により異食行為が一時的に見受けられた方がいるが、一時的に回収する等し、危険防止に努めている。	○	今後も左記の方法で取り組みたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットや事故報告の記録はその都度提出されており、事後のサービス提供に生かすための具体的な話し合いをその都度行うように義務付けした。又各ユニットにおける事案について、全体の会議を定例化し、その中で発表してもらいスタッフへの意識付けを図っている。	○	機会があれば外部講習なども実施していきたい。学習会の機会なども検討していきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急時の対処に関する講習は全ての職員が受けているわけではなく、定期的な訓練もとくには実施していない。	○	未受講の職員にはなるべく早いうちに受講の時間を設定するようになりたい。既に受講している職員に関しても再度受講する機会を確保していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は年2回実施している。	○	非常時において階段を降りるのに介助を要す方に関する介助方法又はより短時間で降りることができる手段について実地を含め話し合う機会を設定した。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	想定されるリスクに関してその都度ご家族と連絡を取り話し合いの機会を設け、サービスの限界も実際ある事を了解頂き提供方法について具体的に確認させていただいている。	○	現状の内容を継続していきたい。ご家族との話し合いの機会は特にリスクが高くなればなるほど多く設定するようしていきたいと考えている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックや入浴、更衣、コミュニケーションなどで体調の変化や異変を発見し、もし異変が見られた場合にはご家族へ連絡すると共に必要があれば速やかに医療機関へ受診して頂く。また受診するほどではない方についても職員間の情報交換を密にしていき継続した観察が出来るように配慮している。	○	現状の事を継続していきたい。またあわせて訪問看護ステーションとの連携も随時図ることとしたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各入居者の処方内容について所定の箇所へ保管しておき、職員が常に閲覧できる状態になっている。また処方に変更があった場合口頭や連絡ノートなどで連絡が行き届くよう配慮している。	○	薬局より発行される情報は常に見ることができる状態にはしてあるが、薬剤ごとの細かい副作用などに関しては薬局などから口頭で頂く事柄以外はなかなか把握し切れていないのが現状である。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	牛乳やヨーグルトなどの食品を召し上がって頂くことで定期的な排便の確保ができた方がおられる。運動はほとんど行っていないのが現状である。便秘治療薬服用にて対応している方が多い。	○	特に運動に関しては取り組みがなされている状態でなく、排便以外にも筋力低下の予防といった意味においても定期的な時間を設ける必要性を強く感じている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝夕の口腔衛生は行っているが、昼食後は行っていない。介助が必要な方には職員がその方に見合った支援を行っている。	○	出来るだけ多くのj方々の毎食後の口腔衛生に支援することが出来る様にしていきたいと考えている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	医師の指示や嚥下の状態等により刻み、とろみ、粥など出来るだけのことは行っている。神経疾患により自力での摂取が難しくなりつつある方がおり部分的に介助している。	○	摂取における問題点が生じてきた場合、随時ご家族へ情報提供すること、その中でホーム側でできること又はできないこと、そして対応が困難になった場合の具体的な方向性についてご説明すること。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	スタッフに対して近隣地域又は施設、事業所等における感染症の蔓延状況の随時連絡と外出後の手洗い、うがいなどの励行、定期的な消毒、そして万が一発生した場合の具体的な対応方法を随時情報提供している。	○	左記以外で可能なことがあれば取り入れていきたいと思っている。ユニット内外の感染症予防の為の消毒をこまめに行うようにした。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具の消毒、台所周辺の衛生状態の保持など随時実施している。冷蔵庫内の食品について定期的に庫内の清掃を兼ねてチェックしている。	○	現状の事を継続していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	観葉植物を所々に置き、雰囲気づくりに努めている。	○	今後も継続していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	花を生けたり、季節の飾り付けをする等し生活感や季節感を感じやすいように配慮している。	○	あくまでも高齢の方に見合った状態にするよう配慮していきたいと考えている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファに座ってテレビを見たり、気の合う入居者同士でお茶を飲みながら会話されるなどしている。またその都度職員の介入により輪を広げるよう努めている。	○	和室があるが畳上に座位がとれる方が少ないこともあってか全く利用される機会がないのが実情であるので、有効利用できるよう考えていきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	新しいものではなく今まで使ってきたもので、愛着のあるものや馴染みのあるものを中心に持参していただけるよう働きかけている。	○	ご家族の考え方、又は都合などもありすべてにおいて馴染みのあるものをそろえることができているとは言い難い。あくまでも生活に支障がない範囲において、必要なものをそろえていただくようお願いしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	尿臭等の気になるにおいを感じた場合にはその都度換気し、においが淀まないよう配慮している。暖房器具にて温度調節を行っている。	○	これまでの事を継続していきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内の壁にはほとんどの箇所に手摺が設定されており、安全面又は自立面に配慮されている。居室内は各自の動線を意識し家具等を支障のないよう配置している。	○	これまでの事を継続していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	以前はトイレなどあまり目立たない目印を使用していたが、視力、姿勢の関係や理解力の程度などで支障をきたすことがおおく起きた為、よりわかりやすい表示を取り付けた。一般的な見方だとやや大袈裟な点があるかもしれない。	○	個々の方々の生活に少なくとも支障が起きる事のないように配慮していきたい。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の裏に畑を作り、野菜の栽培を行っているが、周辺の土壌が悪いこと、また畑作に対する知識を持つスタッフが少ないこと等から限定された内容、取り組みにならざるを得ない。	○	畑の土壌管理を実施していけたらと考えている。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない ①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない ①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない ②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない ③

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>②</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)